

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21H03706

研究課題名（和文）東アフリカのものづくりにおける技術共有の開放性と閉鎖性の実証的研究

研究課題名（英文）Empirical Studies on Inclusiveness and Exclusiveness of Sharing of Technologies in East African Small and Medium-sized Manufacturers

研究代表者

高橋 基樹（Takahashi, Motoki）

京都大学・アフリカ地域研究資料センター・教授

研究者番号：30273808

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,300,000円

研究成果の概要（和文）：ケニアのナイロビに立地するソファ製造業、金属加工業、革靴製造業、エチオピアのアジスアベバに立地する革靴製造業、縫製業を対象事例として、調査を行った。特に、ナイロビのソファ製造業においては製品のデザイン・モデルのユニークさよりも価格が重視されると考えられる低所得層向けの業者の集積地と、製品の多様性と差別化が重視される高所得層向けの業者の集積地とで比較を行った。前者では革新的なデザイン・モデルの共有がおしなべて開放的であったが、後者では多数の業者の間で同様に開放的であった一方で、多数派とは異なる民族帰属の若い業者が自ら開発した新しいデザイン・モデルの情報を暫時秘匿する閉鎖性が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて集積地における条件の違いによって、新しい技術の業者間の共有のあり方に差異が見られることが観察された。顧客が価格の安さを製品の仕様より重視するような集積地では、新しい技術の業者間の共有が開放的である。こうした集積地では、一業者が抜きんでて収益性をあげることができにくい。しかし、高価格であってもデザイン・モデルのユニークさを顧客が求める場合には技術の共有が閉鎖的となり、むしろ特定の業者が成長する可能性がある。こうした知見は、個別企業の拡大でなく企業数の増加が生じているアフリカの小規模製造業の水平的な発展経路とそこからの分岐の可能性を解き明かす意味で、大きな学術的・社会的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：We conducted researches on sofa-making, metal-working, leather-shoe production in Nairobi, Kenya and leather-shoe production and garment manufacturing in Addis Ababa in Ethiopia. Especially, we focused on sofa-making in Nairobi and empirically compared two different clusters. One cluster is located in a low-income residential area, so consumers and thus producers are more conscious about prices and less about uniqueness of design of sofa. The other cluster is in a high-income area, and they are more conscious about uniqueness and diversity of products. In the former cluster, knowledge sharing on innovative design is generally inclusive. In the latter, while the majority of producers share knowledge on innovative design, some young producers with ethnicity different from the majority conceal innovative knowledge on design developed by themselves.

研究分野：地域研究（社会経済開発）

キーワード：ケニア ソファ製造業 製品の差別化 製造業の水平的拡大 技術の秘匿 ナイロビ 製造業の集積地

1. 研究開始当初の背景

サハラ以南のアフリカ(以下単にアフリカ)諸国の製造業に関する早くからの通説的研究は、政府の保護や規制を受けない中小製造業(以下、ものづくり中小企業)が、大企業と二重構造を形成し、技術水準は低いものの、広く人びとの需要を満たすとともに、参入が簡単で多くの雇用・所得機会を生むものと見なしてきた。とりわけケニアなど東アフリカ諸国はこれらの研究の主要な対象となってきた(IL0 1972)。また、アフリカのものづくり中小企業は参入だけでなく退出も容易で、継続的な担い手が少ないことが指摘された(Hart 1973)。継続性が弱く、政府の技術開発への保護もなく、技術保有が開放的で無断で模倣され、競争が激しくなるため技術は低いまま進展(向上・多角化)しないという見方が現在でも有力である(Mahadea & Zogli 2018)。

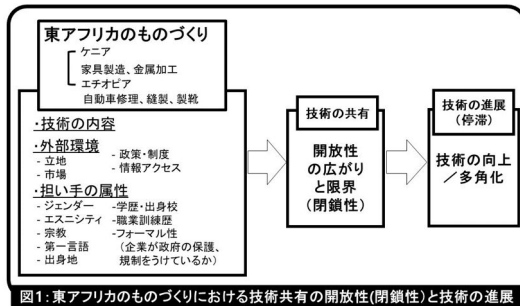
他方で、アフリカの中小企業と関係者の取引や協力は近しい担い手の間だけでなされ、参入は容易でなく閉鎖的であることが、近年一部の有力な論者によって指摘されるようになってきた(Meagher 2006; 武内 1998)。アフリカのものづくり中小企業には、親方徒弟関係を組み込み、あるいは特定の産業集積地を形成するものが多く、そのなかで担い手の協働により技術が進展しているとの見方も生まれている(Oyelaran-Oyeyinka and McCormick eds. 2007)。これらは、技術は開放的に共有されるが進展しないという通説に見直しを迫るものだが、担い手のあり方と、技術共有の開放性及び技術の進展との関係は解明されていない。

申請者らは、これまでの実証的研究を通じて、ものづくりの担い手間の技術共有は一定の広がりと限界があり、周囲の環境や担い手それぞれの持つ属性・考え方によって影響されている可能性があること、技術の共有がある程度広くとも、その向上や多角化など進展が生じていることを知見として得ている。ここで、技術の向上とは特定の種類の製品の品質や生産性が改善すること、また多角化は複数の種類、仕様、大きさ、デザインなどの製品がつくられるようになることを指している。

本研究では、先行研究における対立及び限界、また申請者らの知見を踏まえ、東アフリカにおけるものづくり中小企業において、担い手のあり方が、技術共有の開放性、さらには技術の進展にどのような影響を与えるのかを学問的問いとして立てる。ここで求められるのは、担い手の置かれた環境や担い手の属性・考え方を、東アフリカのものづくり中小企業の現場の状況に即して包括的に調べ、その技術共有の開放性や進展との関係を実証的に明らかにすることである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アフリカのものづくり中小企業の担い手の置かれた外部環境と属性が、技術共有の開放性(あるいは閉鎖性)及び技術の進展にどのように影響するのかを明らかにすることである。この目的を達成するため、ものづくりの内容、担い手が置かれた外部環境、及び担い手の属性・考え方、技術共有のあり方と範囲、技術の進展について現地で詳細な調査を行い、の調査結果が、技術共有の開放性及び技術の進展(向上や多角化)にどのように影響しているのかを分析する。



3. 研究の方法

本研究では、各国政府の統計を参照することも考慮に入れて、研究対象各国の公式の定義にしたがい、中小の製造業(ものづくり)を対象とする。本研究では、東アフリカの中でも経済規模の大きいケニアとエチオピアのものづくり中小企業と担い手を対象とする。それぞれの調査結果を分析・考察し、相互の比較を可能とするため、あらかじめ準備した調査項目を研究メンバー全体で共有して現地調査を行う。

具体的な調査研究の項目と方法は以下の通りである(以下【】内に具体的な調査研究の方法を示す)。

1. ものづくり中小企業を取り巻く環境、担い手の属性・考え方

1- ものづくりの内容、技術と共有【参与観察と研究対象業種ごとに各 20 名前後の担い手への深層面接】

1- (1) 製品の種類など特徴 つくられる製品の種類、仕様、大きさ、デザインなどの詳細、価格、製造費

1- (2) 技術の内容 ものづくりの工程・手順/機器・材料/ICTなどの詳細

1- (3) 技術の進展(向上と多角化)の有無と内容

1- (4) 統計資料 各業種の付加価値・雇用・輸出入・賃金水準等統計資料の収集

1- ものづくりを取り巻く外部環境【参与観察と業種ごとに各 20 名前後の担い手への深層面接】

1- (1) 立地 集積地か否かなど同業者との近接性/作業場所・工場の遮蔽性/インフラの整備の程度

1- (2) 市場 同業他社製品・輸入品との競争状況/各関連市場(労働、資本、材料、機器)

1- (3) 政策・制度 企業登録/課税/補助金/教育・職業訓練/貿易政策/インフラ整備

1- (4) 情報アクセス 技術に関する情報メディアの有無・内容/インターネットへの接続など ICT 環境

1- 担い手(経営者、労働者など)の属性とものづくりについての考え方【1-

(1)~1- (3)については業種ごとに各 100 名前後の担い手への構造化インタビュー、さらに1- (3)について業種ごとに約 20 名に深層面接】

1- (1) 社会的属性 ジェンダー/エスニシティ/宗教/第一言語/出身地/学歴・出身校/職業訓練歴/企業のフォーマル性(政府に登録されており、保護、支援や規制を受けるか、受けないか)など

1- (2) ものづくりに関わる役割・能力 地位(経営者・管理者か、労働者か)/

担当する工程・作業 / 担当していないが、用いることのできる技術とそれを用いる工程・作業 / ICT 等を通じた情報収集能力など

- 1- (3) ものづくりの考え方 経営・生計・生きがいにとっての、ものづくりとその技術の位置づけなど
- 1- ものづくり技術の共有【1- (1)・1- (2)について業種ごとに参与観察と各 100 名前後の担い手への半構造化インタビュー、さらに 1- (2)について業種ごとに約 20 名に深層面接】
 - 1- (1) 技術の共有の有無、範囲と方法 どのような技術やその向上・多角化が他の担い手と共有されているのか / 技術を共有し、あるいは共有しない相手は誰か / 相手との共有はどのように行われているか (例: 他者からの習得・模倣、親方徒弟関係・OJT などを通じた訓練、意識的な教示、展示、模倣の許容)
 - 1- (2) 技術の共有についての考え方 他の担い手との技術の共有についての考え方 (徒弟を含む他者への指導・開示への積極性、他者による模倣の容認の是非、それらの理由や動機付け)

2 ものづくりの内容、担い手の外部環境、属性及び考え方と、技術共有の開放性及び技術の進展との相関関係・因果関係の定量的・定性的分析

- 2- 開放性の分析 技術共有のあり方と範囲の調査結果 (1-4-1) に基づく、技術の内容やその進展を共有している担い手とそうでない担い手の同定 / この同定に基づく技術共有の範囲の特定
- 2- 技術共有の開放性と相関し、因果関係にある 1. の調査項目の分析 技術の内容 (1-)、外部環境 (1-) と属性及びものづくりへの考え方 (1-)、技術共有の方法と考え方 (1- (2)) の各項目と、技術共有の開放性 (2-) 及び技術の向上・多角化 (1- (3)) との関連性の分析
 - 2- (1) 相関関係の定量的分析 1. の各調査項目のうち定量化できるものを説明変数とし、開放性及び技術の向上・多角化を被説明変数とする相関関係を統計的に分析する。その際、操作変数法やマッチング法などを用いて、できる限り因果関係の検出に努める。
 - 2- (2) 相関関係・因果関係の定性的分析 担い手などからの 1-4 に関する聞き取り調査を通じて、相関関係・因果関係を定性的に考察する。
 - 2- (3) 定量・定性的分析の統合 上記の分析結果に基づき、また統計も参照しつつ、事例と事例との比較対照をも行う。担い手の置かれた環境と属性・考え方から、技術共有の開放性・閉鎖性、技術の向上・多角化が受ける影響を包括的に考察する。
- 2- の分析に基づき、技術が多様な担い手によって広く共有され、同時に技術の向上や多角化が実現される「開かれた発展」を実現するための政策的な含意も検討するものとする。

4. 研究成果

ケニアのナイロビに立地するソファ製造業、金属加工業、革靴製造業と関連産業、エチオピアのアジスアベバに立地する革靴製造業と関連産業、縫製業を対象事例として、調査を行った。

とりわけ、ケニアのソファ製造や金属加工、ケニアとエチオピアの革靴産業と関連産

業の調査を通じて、これらのセクターでは、デザイン・モデルの更新や、耐久性の向上などでさまざまな革新が行われていることが分かった。また研究期間の大半は、コロナ禍と重なっており、この時期に対面での取引が難しいことを乗り越えるために、モバイルマネーの利用などが進んだことが分かった。

とりわけケニアの金属加工業での調査では、次のことが把握できた。

小規模零細事業者の中には高い熟練の技術を持つ者がいるが、同事業者が通常顧客とする低所得者層への販売のみならず、高所得者層に向けてオーダーメイド（カスタムメイド）で生産を行う者がいる。高所得者は製品の耐久性など品質について敏感だと考えられる。

そのことは、このセクターが、ナイロビ、ひいてはケニアにおける金属加工の革新の拠点のひとつになっていることを示唆している。

小規模零細生産者の一部は、機械・設備などの更新に向けて投資をしようとする潜在的な需要がある。しかし、多くがインフォーマルなため、大規模なフォーマル金融機関からの融資を受けることが難しい。ここで、多くの事業者はそ多面的な企業者能力を発揮し、資金不足を補っている。

また、技術共通の開放性・閉鎖性に関する深い調査では、特に、ナイロビのソファ製造業に焦点を当てた。ナイロビには、いくつかのソファ製造のクラスター（集積地）があるが、そこから2つの集積地を選び比較をおこなった。ひとつは、製品のデザイン・モデルのユニークさよりも価格が重視されると考えられる低所得層向けの業者の集積地であり、もうひとつは製品の多様性と差別化が重視される高所得層向けの業者の集積地である。その2つの間で、デザイン・モデル、及びそれらに伴う技術や知識の開放性・閉鎖性について比較した。

前者の集積地では、革新的なデザイン・モデルの共有がおしなべて業者間で開放的であり、ある業者によるこれらの革新は、速やかに他の業者に模倣される傾向にあった。他方で、後者の集積地では民族帰属を同じくする多数の業者の間で同様に開放的であったが、多数派とは異なる民族帰属の若い業者が、自ら開発した新しいデザイン・モデルの情報をしばしば秘匿し、他の業者にはその間模倣させない閉鎖性が見られた。秘匿の方法としては、作業をもっぱら屋内でおこない、また従業員に固定給を支払って転職をさせないなどの方法がとられていた。

本研究を通じて集積地における条件の違いによって、新しい技術の業者間の共有のあり方に差異が見られることが観察された。顧客が価格の安さを製品の仕様より重視するような集積地では、新しい技術の業者間の共有が開放的である。こうした集積地では、一業者が抜きんでて収益性をあげることができにくい。しかし、高価格であってもデザイン・モデルのユニークさを顧客が求める場合には技術の共有が閉鎖的となり、むしろ特定の業者が成長する可能性がある。こうした知見は、個別企業の拡大でなく企業数の増加が生じているアフリカの小規模製造業の水平的な発展経路とそこからの分岐の可能性を解き明かす意味で、大きな学術的・社会的意義を持つ。

他方で、革靴製造業と関連の皮革産業については、ケニアとエチオピアの国際比較、ならびに両国の国際的な技術関連の調査研究をおこなった。ケニアの皮なめし企業の経営者が、エチオピアを訪問して同一産業のより進んだ技術を伝授され、技術移転を受けている例があった。背景には、アフリカ大陸で徐々に進む地域経済統合が両国の経済関係を近いものにしていくことがあった。これは、技術共有の開放性が国境を越えて及んでいる例として、今後の深い考察に値する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 井手上和代	4. 巻 26
2. 論文標題 アフリカの地場企業と産業発展 モーリシャスとケニアの事例より	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治学院大学国際学部附属研究所年報	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yamada, Shoko and Simon McGrath	4. 巻 101
2. 論文標題 Skills for Development and Vocational Education and Training: Current and Emergent Trends” The editorial for the special issue “Skills for Development Revisited	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Development	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Emmanuel Estrellado, Pimmada Charoensilp, and Shoko Yamada	4. 巻 101
2. 論文標題 The effects of game-based soft skills training: A quasi-experiment with Ethiopian garment workers,	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Development	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamada, Shoko	4. 巻 101
2. 論文標題 Constructivist Analysis of Cross-Sectional Data on Varieties of Skills: Soft Skills, Hard Skills, Personalities, and Workplace Rewards in Ghana and Ethiopia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Educational Development	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高橋基樹	4. 巻 29巻2号
2. 論文標題 先進国ドナーとしての韓国 2010 年OECD-DAC加盟以降の開発協力。(鄭倣民と共著)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際協力論集	6. 最初と最後の頁 97-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 町北朋洋	4. 巻 741
2. 論文標題 外国人雇用状況の届出	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kiyoyasu Tanaka, Takahiro Fukunishi	4. 巻 82
2. 論文標題 Rules of origin and exports in developing economies: The case of garment products	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Asian Economics	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.asieco.2022.101514	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田肖子	4. 巻 125
2. 論文標題 発信と共感を伴う知識 アフリカ伝統社会での知識観から情報駆動社会への照射	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井手上和代	4. 巻 0
2. 論文標題 Column 6 モーリシャスの「音」にひそむもの	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 」半澤朝彦編著『政治と音楽 国際関係を動かす”ソフトパワー”』	6. 最初と最後の頁 191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Takahashi・Kana Matsubara	4. 巻 29巻1号
2. 論文標題 Poverty, Youth Inclusive Development, and Human Resource Cultivation in Africa Revisited: A Critique of Japanese Assistance for Self-Reliance” 51-85. ((co-authored with	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際協力論集	6. 最初と最後の頁 51-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shoko Yamada・Christian Othia	4. 巻 26巻1号
2. 論文標題 Differential effects of schooling and cognitive and non-cognitive skills on labour market outcomes: The case of the garment industry in Ethiopia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Training and Development	6. 最初と最後の頁 145 - 162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計21件(うち招待講演 12件/うち国際学会 12件)

1. 発表者名 Takahashi, Motoki
2. 発表標題 The History and Landscape of African Studies in Japan and Kyoto
3. 学会等名 The 2024 Seoul National University Africa Forum (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Takahashi, Motoki
2. 発表標題 How to Reverse Africa's De-industrialization: Structural Transformation
3. 学会等名 Africonverse 2024 no.1 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Takahashi, Motoki
2. 発表標題 Inclusiveness and Exclusiveness of Sharing of Technologies by East African Entrepreneurs: Empirical Studies of Small and Medium Manufacturing Enterprises
3. 学会等名 Kobe-Duke Symposium on African Economic Development - Informality and Dynamism of African Economies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shoko Yamada
2. 発表標題 Changing Concepts of Sustainability and their Implications to Teaching: Based on a Quantitative Analysis of Web-Downloaded Texts since the 1990s.
3. 学会等名 2023 Annual Conference of the Asia-Pacific Association for Teacher Education: Connecting Multiculturalism, Sustainability, and Teacher Education (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shoko Yamada
2. 発表標題 Assessing and Training Soft Skills of Working Youths: Introducing the Program by the SKY - Skills and Knowledge for Youths
3. 学会等名 Japan Society for Afrasian Studies 2023 Annual Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山田肖子・島津侑希
2. 発表標題 「持続可能な開発」は誰にとってのどのような課題なのか - フィリピン、ケニアでのオンライン質問票調査からの試論
3. 学会等名 国際開発学会第34回大会 ラウンドテーブル 「持続可能性」の多義性を問う - 言説分析、認識調査、評価の先に何を見るか
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋基樹
2. 発表標題 アフリカにおける製造業の「失われた中間」を問い直す ソファ製造の多系的発展の事例から
3. 学会等名 国際開発学会第33回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomohiro Machikita
2. 発表標題 Incentives on the Road: Multitask Principal-Agent Problem and Accidents in the Trucking Industry
3. 学会等名 Thai Studies The 14th International Conference (ICTS14) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福西隆弘、町北朋洋
2. 発表標題 職業スキル政策と若者の雇用
3. 学会等名 第59回日本アフリカ学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井手上和代
2. 発表標題 ケニアの小規模零細金属加工業者のものづくりと資金調達 企業者の能力に着目して
3. 学会等名 国際開発学会第33回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井手上和代
2. 発表標題 ケニアのモバイルバンキング インフォーマルな零細製造業者のものづくりと資金調達
3. 学会等名 Global Collaborative Research 金融デジタル化研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松原加奈
2. 発表標題 変転する政策と企業の展開 エチオピアの革靴製造業に着目して
3. 学会等名 第59回日本アフリカ学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松原加奈
2. 発表標題 支援を渡る 政府と国際援助機関によるエチオピア皮革産業の現地企業への影響
3. 学会等名 国際開発学会第33回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shoko Yamada
2. 発表標題 Industrial skills development Challenges and opportunities in developing countries
3. 学会等名 United Nations International Development Organization Webinar "Joining forces for industrial skills development" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 持続可能性と教育の接続 - “持続可能性”概念の変遷が示唆するもの
3. 学会等名 日本教育社会学会第73回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田肖子
2. 発表標題 発信と共感を伴う知識 - アフリカ伝統社会での知識論から情報駆動社会
3. 学会等名 教育哲学会第64回大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shoko Yamada
2. 発表標題 Ensuring equity and responsiveness of industrial skills development
3. 学会等名 Science Forum South Africa 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shoko Yamada
2. 発表標題 Opportunities and Challenges of Skills Development: Why do we need evidence-based decisions
3. 学会等名 Webinar on Industrial Skill Development in Developing Countries: Education, Skills Demands, and Productivity 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木寛・北村友人・山田肖子
2. 発表標題 「新しい日常」における水平的で双方向の学び
3. 学会等名 EDU-Portシンポジウム 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木寛・北村友人・山田肖子
2. 発表標題 「新しい日常」における水平的で双方向の学び
3. 学会等名 EDU-Portシンポジウム 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木寛・北村友人・山田肖子
2. 発表標題 「新しい日常」における水平的で双方向の学び
3. 学会等名 EDU-Portシンポジウム 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山田肖子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 109
3. 書名 『持続可能性』の言説分析	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井手上 和代 (Ideue Kazuyo) (00838435)	明治学院大学・国際学部・講師 (32683)	
研究分担者	町北 朋洋 (Machikita Tomohiro) (70377042)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	福西 隆弘 (Fukunishi Takahiro) (80450526)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・開発研究センター・主任調査研究員 (82512)	
研究分担者	松原 加奈 (Matsubara Kana) (80962547)	東京理科大学・経営学部国際デザイン経営学科・助教 (32660)	
研究分担者	山田 肖子 (Yamada Shoko) (90377143)	名古屋大学・国際開発研究科・教授 (13901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------